

経 済 民 生 常 任 委 員 会 記 録

令和元年 12 月 20 日(金)午後1時 30 分～午後3時45分(9階 908 会議室)

○出席委員(8名)

委員 長	二階堂武文
副委員長	佐々木 優
委 員	高木 直人
委 員	川又 康彦
委 員	石山 波恵
委 員	阿部 亨
委 員	小松 良行
委 員	山岸 清

○欠席委員(なし)

○市長等部局出席者(商工観光部、市民・文化スポーツ部)

商工観光部長	西坂 邦仁
観光コンベンション推進室長	清野 良彦
観光コンベンション推進室次長	柳澤 正俊
観光コンベンション推進室観光プロモーション係長	清野 明
市民・文化スポーツ部長	横田 博昭
文化スポーツ振興室長	齋藤 義弘
文化振興課長	中村 鉄也
文化振興課課長補佐兼文化振興係長	渡辺 謙司

○議 題

「古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査」

(1) 当局説明

①これまで取り組んできた古関裕而氏関連の観光・文化事業について

②ドラマ放映決定を契機とした古関裕而氏を活かした本市の賑わい創出の取り組みについて

(2) 意見開陳

(3) 行政視察について

(4) その他

午後1時30分 開 議

(二階堂武文委員長) ただいまから経済民生常任委員会を開会いたします。

古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査を議題といたします。

この件について、商工観光部並びに市民・文化スポーツ部に説明をお願いいたしましたところ、業務多忙のところ、本日お引き受けくださることとなりました。委員会を代表して御礼を申し上げます。ありがとうございます。

それでは、早速議題に入りますが、委員の皆さんからの質疑は聴取内容を全てご説明いただいた後に行いますので、よろしくをお願いいたします。通常の委員会審査とは違いまして、当局から現状を教えていただく場となります。まずは、その点十分に配慮して質疑のほどをお願いいたします。

それでは、当局からの説明を求めます。

(市民・文化スポーツ部長) 本日は、古関裕而氏を活かしたにぎわいの創出に関する調査ということでご説明の機会をいただき、ありがとうございます。担当部局として説明をさせていただきます。

まず、古関裕而氏の取り組みといたしましては、6月に官民協働による古関裕而のまち・ふくしま協議会を立ち上げ、その中で古関裕而のまち・ふくしまシンフォニーを取りまとめ、現在取り組みを進めているところでございます。

次に、その取り組みについてであります。古関裕而氏を生かしたまちづくりとして、古関裕而記念館を中心に、主に古関裕而氏を広く発信していくものについては市民・文化スポーツ部が担い、連続テレビ小説、エール放映を契機としたロケツーリズムなどの観光振興、にぎわいに資するものについては商工観光部が担うという、そのようなすみ分けの中で進めているところでございます。

それでは、これから詳細を文化スポーツ振興室並びに観光コンベンション推進室、両室長より一括してご説明申し上げますので、よろしくをお願いいたします。

(文化スポーツ振興室長) では、私のほうからこれまでの取り組みと先ほどのシンフォニーの概要についてご説明を申し上げます。

まず、1枚、初めまして古関裕而氏関連事業としてA4の表、裏の資料があるかと思っておりますので、表題が古関裕而氏関連事業という表題のものでございます。A4のペーパーをよろしいでしょうか。古関裕而氏関連事業としまして、これまでの取り組みとしまして3点、まず報告させていただきたいと思っております。

古関裕而氏に関しては、古関裕而記念館がありますが、そのほか、これまで古関裕而記念音楽祭を開催し、記載のとおり、古関裕而氏の偉業をたたえ、その功績を長く後世に伝えるため、平成3年度から毎年開催しているものでございます。これまで無料ということで開催してまいりましたが、定員を超える応募があり、例年、抽せんにより選出している状況でございます。令和元年度の本年度は、

氏の生誕110周年にあたる年でしたが、テーマを永遠に響け、古関メロディーみんなに贈る応援歌をテーマとしまして、加藤登紀子さんとY a eさん及び山形交響楽団のステージなどによる音楽祭を開催したところでございます。本年につきましてからは有料化ということで、1,000円の有料としまして、昼夜2回開催したところでございます。昼夜合わせまして約1,700人の参加のもとに今回は音楽祭を開催したところでございます。

これまで平成3年度から29回を数えていますが、課題としましては、古関裕而氏を知らない世代が多くなっているということとともに、栄冠は君に輝くの作曲家が福島市出身であることも知らない、あるいは戦後間もなくの曲がほとんどでございますので、古関裕而氏の曲も多く知らないというような世代がふえているということがありまして、この音楽祭の参加は高齢者層を中心としたというような課題があったところでございます。その一方で、出演者につきましては幼稚園、小学校、中学校、高校の参加のもとに、若い世代の関心を持たせる取り組みを進めてきたところでございます。

2番目の古関裕而、金子夫妻朝の連続テレビ小説実現の取り組みでございますが、こちらにつきましては、経緯としましては、まず平成26年度に福島商工会議所青年部より、下にローマ字になりますが、F u k u s h i m a W a s s y o i P r o j e c t というような提案が提出されました。こちらの内容としましては、古関裕而氏を題材としたNHK連続テレビ小説の実現、2020東京オリンピック開会式での福島市の子供たちによるオリンピック・マーチの演奏の実現を目指すという取り組みを、提案書をいただいたところでございます。

平成27年度には、福島商工会議所青年部がマーチング f r o m ふくしま というイベントを開催しまして、古関メロディーが織りなす2020年への道ということで、古関メロディーを中心としたミュージックイベントと、トークイベントとしまして、こころの復興×古関裕而 というようなトークイベントを駅前広場で開催したところでございます。

これを受けまして、本市としましては、名誉市民、古関裕而氏の功績を全市で見詰め直し、古関裕而氏を生かしたまちづくりの展開とともに、全国へのふるさと福島の発信ということもありますので、NHK連続テレビ小説実現の取り組みにつきまして取り組んでいくということを平成27年度に決定しまして、奥様の金子さんの出身地である豊橋市とともに取り組んでいく方針を決定したところでございます。

これを受けまして、平成28年度には、10月でございますが、福島市、豊橋市両市長ほか、観光コンベンション協会、商工会議所等での合同で、古関裕而氏、金子夫妻の2020年上期の連続テレビ小説実現の要望書をNHKに提出したところでございます。

その10月の末には、NHK朝の連続テレビ小説実現協議会を設立しまして、その目的としましては、古関裕而氏、金子夫妻をモデルとした2020年上期の朝の連続テレビ小説の実現、それと東京オリンピックでの福島市の子供たちで組織するマーチングバンドによるオリンピック・マーチ演奏の実現、それと上記2つの活動による福島の復興の発信という取り組みを目的としまして設立をしたところでござ

ざいます。構成団体は、福島市のほか、商工会議所及びその関係団体、観光コンベンション協会、飯坂、高湯、土湯観光協会、福島商業高校同窓会で組織したところがございます。取り組みとしましては、連続テレビ小説誘致署名活動の展開とともに、古関裕而音楽祭、マーチング f r o m ふくしまなどによる古関裕而氏の発信をすることに取り組むとしたところがございます。

なお、その10月には同じくマーチング f r o m ふくしま2016を開催し、古関裕而音楽フェスとともに、NHK連続テレビ小説誘致署名運動スタート宣言を行ったところがございます。ここで署名活動をスタートしたところがございます。

なお、記載しておりませんが、豊橋市におきましては平成29年2月に豊橋市で署名活動を開始したところがございます。

平成29年度には、署名活動が15万名を超えるというところまで集まりましたが、NHKへの要望活動として、その連続テレビ小説誘致署名の提出とともに、連続テレビ小説の提案書の提出を10月に行ったところがございます。

なお、署名につきましては、最終的に平成30年3月で福島市で8万9,369、豊橋市が7万6,875、計で16万6,244名の署名が集まったところがございます。

平成30年度には、記載の2つの事業を実施したところがございますが、平成31年2月28日に連続テレビ小説、エール放映の決定の知らせが入ったところがございます。

連続テレビ小説取り組みの経緯については以上でございます。

裏面をごらんください。もう一つ大きな事業として、古関裕而氏の野球殿堂入りの取り組みでございます。こちらにつきましては、平成23年度に古関裕而氏が野球殿堂入りの候補者となった経緯がございます。ただ、この平成23年度については、候補者になりましたが、落選ということで、翌平成24年度には候補者から外れたという経緯がございます。古関裕而氏につきましては、高校野球の栄冠は君に輝くとともに、大学野球では早慶の応援歌、プロ野球においては巨人、阪神の応援歌、それと社会人野球においても社会人都市対抗野球の応援歌等の幅広く野球の応援歌を作曲したということで、野球の応援のスタイルに欠かせない応援歌を作曲したということで、日本の野球発展に大きな貢献があるということで、殿堂入りを目指す取り組みを進めたところがございます。

平成30年11月1日でございますが、古関裕而氏の殿堂入りを実現する会を設立しまして、その取り組みとしましては、野球殿堂特別表彰推薦書を提出するとともに、野球殿堂入り実現へ向けた機運醸成事業に取り組むことを目的として会を設立したところがございます。構成団体につきましては、記載の福島市、商工会議所、福島商業高等学校同窓会ほか、野球関係、それと報道関係等により構成団体としたところがございます。なお、賛助団体として、先ほどの殿堂入り実現へ向けた機運醸成ということで、全国的な広がりのために、読売巨人軍、阪神タイガースをはじめとしまして、記載の全国的な組織及び県内の野球関係の団体にも賛助団体として賛同を得まして、連名により野球殿堂の特別表彰推薦書を提出したところがございます。この特別表彰につきましては、プレーヤーではなく、野

球発展に貢献した社会人野球等の監督、あるいは20世紀粋では正岡子規が野球として命名したということになっているところがありまして、幅広い分野からの選出ということでございまして、音楽の面から野球の発展に貢献したということで特別表彰の推薦を提出しているところでございます。

11月7日に野球殿堂入り推薦書を提出し、シンポジウムを開催したところでございますが、残念ながら昨年度におきましては、10名に候補者が絞られましたが、この10名に入らなかったということで終わったところでございます。

なお、古関裕而氏の野球殿堂の取り組みにつきましては、実現する会において継続して取り組むということを決めたところでございまして、本年度に入りましては5月に野球殿堂入りの啓発ポスターを作成し、掲出するとともに、野球応援歌メロディーとしまして、早稲田大学の応援歌の紺碧の空、慶應大学の応援歌の我ぞ覇者、それと巨人、阪神それぞれの応援歌の4曲のメドレーを、山形交響楽団に依頼しましてメドレーを編曲したところでございまして、11月10日に開催しました今年度の古関裕而記念音楽祭で山形交響楽団により演奏披露していただいたところでございます。

なお、市役所の電話保留音につきましては、9月1日より栄冠は君に輝くに変更したという経緯があるところでございます。

今年度の野球殿堂特別表彰の推薦書につきましては、10月31日に提出したところでございまして、せんだって新聞報道ありましたが、古関裕而氏が2020年の特別表彰候補者10名に選出されたということで、第1関門をクリアしたところでございます。今後、この10名につきまして選考委員会の投票で、4分の3以上で11票ですか、以上いただければ殿堂入りということでございまして、発表は1月14日ということで聞いているところでございますので、今年度のできれば朝の連続テレビ小説の放映と同時に野球殿堂入りを実現すればいいかなということで期待しているところでございます。

これまでの取り組みにつきましては、このような形で古関裕而先生をもう一度若い世代も含めて福島市全市で功績を見詰め直す取り組みを進めてきたところでございまして、このような関連事業を進めたところでございます。

なお、その中で、先ほどありましたが、やはり先生の楽曲につきまして若い世代への浸透といいましか、周知というのが大きな課題なのかなというところがあるところでございます。

続きまして、古関裕而のまち・ふくしまシンフォニーについて、冊子に基づきまして説明を申し上げます。古関裕而のまち・ふくしまシンフォニーにつきましては、先ほどの連続テレビ小説、エールの放映決定を受けまして、福島市としてエール放映を機に古関裕而氏を生かしたまちづくりを進めるために、古関裕而のまち・ふくしまシンフォニーを決定したところでございますが、これにつきましては先ほどの古関裕而のまち・ふくしま協議会を設立しまして、会長を市長としまして、副会長が商工会議所と商工会議所青年部、それと観光コンベンション協会を副会長としまして、ほか商工、観光、報道関係及び県を含めました全部で30団体で構成した古関裕而のまち・ふくしま協議会を6月に設立したところでございます。

協議会の目的としましては、古関裕而氏が生まれたまちとして、氏及び氏の楽曲を生かしたまちづくり、交流人口拡大の取り組みを市民協働を進めることを目的としたところでございます。この中で、今回古関裕而のまち福島ということでのシンフォニーでございまして、エールシンフォニーではなくしたところにつきましては、エールにつきましてはやはり来年度、2020年度を一つの契機として、古関裕而氏の生まれたまちとしての新たなまちづくりを立ち上げるということで、古関裕而のまち・ふくしまシンフォニーとしてまとめたところでございます。

その内容につきましては、右上にありますように、今回説明する内容としましては、白丸については着手及び完了した事業でございます。黒丸につきましては今後着手する事業ということでごらんいただきたいと思っております。第1楽章から第3楽章まででございます。

まず、第1楽章、古関裕而に触れ、親しむでございまして。やはり先ほど若い世代への周知というか、知っていただくことが課題というところがありますので、古関先生をまず知っていただくことが重要だということで取り組んでいるところでございます。

その1番目の身近なところで古関メロディーにつきましては、市本庁舎での古関メロディーの活用ということで、電話保留音に続きまして、12月18日からノー残業デーのメロディーを別れのワルツに変更したところでございます。蛍の光を先生が編曲したものでございますが、別れのワルツということでもあります。

(2)番として、駅発車メロディーの拡大ということで取り組んでいるところでございますが、こちらについては今後ちょっと検討を進めるところでございます。なお、後ほど説明しますが、栄冠は君に輝くを駅新幹線の発車メロディーとしてなぜなのかなということがよく駅のほうでもあるということなので、今回その栄冠は君に輝くが古関先生の作曲であるということを組み入れたポスターを掲出する予定でございます。こちらについては、後ほどご説明申し上げます。

続きまして、メロディーバスでございますが、古関裕而メロディーバスの運行でございます。こちらについては、カラー刷りの資料の右上に別紙1とある資料をごらんいただきたいと思っております。古関メロディーバス、仮称でございますが、コンセプトとしましては、外装は移動音楽館ということで、楽器が感じられるデザインを行うということで、内装につきましては県産の木材を活用して、温かい空間の中で古関メロディーのBGMが流れるようなイメージをするということで、詳細については今後デザインをしていくということになります。活用方法としては、平日は市民に親しまれる路線バスとして運行を予定しておりますが、週末については古関裕而先生のコンテンツ、ちなんだ土地をめぐる観光バスとして、観光客をおもてなしするとともに、市のイベント等においても活用する方向で導入をするものでございます。

資料に戻っていただきたいと思っております。2番目の古関裕而氏の発信でございます。(1)、(2)については、記載のとおりで全て終わったところですので、記載のとおりでございます。

(3)の市関係施設における情報発信につきましては、まず駅の西口の観光案内所でございますが、

こちらに今後、着手しておりますが、古関裕而氏紹介コーナーの設置を進める予定でございまして、壁面への映画ポスター風古関裕而夫妻物語ですが、こちらは駅の観光案内所の東側に花見山の大きなパネルがございまして、あのパネルを、古関裕而夫妻をモデルとした、古関裕而夫妻を映画ポスター風に描いたものにデザインしたものに差しかえる予定で今進めているところでございます。これは、新幹線をおりて最初に見るところがあそこなので、そういう形で進めるということで考えているところでございます。まちなか交流スペースは記載のとおりでございまして、ふくしまの顔づくり事業、こちらについては後ほど第2楽章であわせて説明させていただきたいと思っております。

(4)の民間施設等における情報発信でございまして、古関裕而氏の情報発信として、先行しまして福島商工会議所でパンフレットとして、このような古関裕而の名曲時代を超えてというパンフレットをつくって、作成済みでございまして。こちらは、市内の事業所等に持っていきまして配布しているところでございまして、これを作成してございまして。なお、古関裕而カレンダーも福島商工会議所で作成しておりまして、添付の図がございまして、このような形での来年度のカレンダーを商工会議所のほうで作成して、やはり広く知っていただくという取り組みを進めていっているところでございまして。その3つ目の黒丸でございまして、これ福島南ロータリークラブで駅新幹線コンコースに、創立50周年記念事業としまして、古関裕而モニュメント制作を予定しているところということで伺っております。こちらについては、1メートル80センチぐらいになるというようなモニュメントでございまして、立体的よりは平面的な絵になるかみたいな話を伺っていますが、こちらを作製して、50周年記念として、駅に設置するという取り組みを進める予定でございまして。ホテル、旅館については、吉川屋さんで古関裕而展を今年度既に行っておりまして、もう一つはさくらFM、西宮市にあります。西宮市は甲子園球場があるところでございまして、こちらに文化振興課の職員が招待いただきまして、古関裕而と野球の街コンサート及び特別番組、古関裕而と甲子園球場のあるまち・西宮への出演をして、古関先生等の発信をしたところでございまして。

2ページをごらんください。(5)の野球殿堂入りについては、先ほどのとおりでございまして。

6番、古関裕而氏の新たな顕彰の取り組みとして、マンガで読む古関裕而の作成ということで、これはまだ完成しておりませんが、これは作成しているところでございまして。古関裕而氏の業績を漫画で子供たちにわかりやすく伝えていこうということで、先ほどのように若い世代への古関先生の功績を伝えるためにも、わかりやすく伝えるために、マンガで読む古関裕而を作成するものでございまして、これについては小中学生への配布とともに、一般配布も行う予定でございまして。古関メロディーからのエールエピソードでございまして、これは1月から着手しようとしておりますが、古関裕而氏の功績を古関メロディーからのエピソードという新たな切り口で募集し、市及び民間企業によりまして、古関裕而のまち福島に関する事業で活用を図るということで、これにつきましては全国的にエピソードを募集しまして、古関裕而氏を生かしたまちづくりとともに、連続テレビ小説、エールを生かしたまちづくりなどにも活用するためにエピソードを募集していこうということでございまして。こち

らは、現在ポスター等を作成中でありまして、全国的な展開のために、SNS等も活用しながら、広く広報を図ってまいりたいというふうに考えております。

メディアによる情報発信については、(1)の市による特別企画については、来月、1月に福島テレビで作成した特別番組を4回放映、これ別々の番組で4番組になりますが、放映する予定でございます。あと、市政だよりの1月号でございます。

メディアによる古関裕而氏の発信企画につきましては、記載のとおり、これまで報道等ありましたが、今回福島民報社において12月10日からということで、あなたが選ぶ古関メロディーベスト30というふうな募集をするということになっておりまして、こちらについては3月に決定していくということで伺っているところでございます。

4番の学校、幼児教育における古関素材の導入につきましては、(1)の学校教育での古関裕而氏学習におきましては、今後、鼓笛パレードにつきましては学校によりまして規模、編成が違いますので、一律の楽譜ではできないことがありますので、今後、学校の規模や構成に合わせた編曲をするように、これについては令和2年度の予算の中で取り組んでいながら、鼓笛パレードに演奏をしていただくような取り組みを進めたいと考えているところでございます。

5番の古関裕而記念館におけるコンテンツの充実でございますが、まず大きなテーマとして展示のリニューアルでございます。こちらについては、今年度、令和元年度につきましては企画展示を新設する予定で今進めているところでございまして、内容としましては古関裕而氏のエールということで、野球やラジオドラマ、あるいはオリンピックから古関先生が送った、あるいは古関先生からいただいたエールをテーマとした内容とともに、連続テレビ小説、エールの素材とした企画展示を新たに新設するものでございます。令和元年度、今年度は常設展示の基本計画を作成しているところでございまして、映像コンテンツも作成しながら、映像機器につきましては1階に映像機器を設置しまして、これまでテレビでの演奏場面しか見られなかったのですが、1階には映像の機器を置きまして、映像コンテンツでいろんな角度からの古関先生の発信をしていきたいというふうに考えているところでございます。常設展示につきましては、今年度は企画展示として、ある程度の変化がありますが、常設展示のリニューアルについては、2階の作曲部屋以外の部分につきましては、動線等を考慮しまして、全面的にリニューアルをしてまいりたいと考えているところでございまして、こちらにつきましては展示工事にあたりましてはかなりの期間、休館の部分が出てまいりますので、まず企画展示をしますもので、それでエールを入れながら更新しながらきまして、来年度、令和2年度に、来館の状況を考慮しながら、全面的な展示かえを進める計画で考えているところでございます。

(2)番の古関裕而作曲の校歌等の音源収集につきましては、現在進めておりまして、福島県内61校、県外54校から集まっているところでございまして、これにつきましても展示計画の中で検討して、常設展示リニューアル等で広く活用できればなというふうに考えているところでございます。

なお、4番の環境整備につきましても、古関裕而記念館のまず建物に古関裕而記念館という表示が

今ございませんので、何の建物かがわからないという状態でございますので、旧日赤側のほうから見られるように壁面に古関裕而記念館と表示することで予定しているところでございます。また、日赤前の停留所から記念館まで案内サインがございませんので、これについても3月までには設置して、来館者へのサインを設置する予定でございます。

3ページに移りたいと思います。第2楽章として、今度は古関裕而のまち福島のまちづくりでございます。1番目、古関裕而のまち福島のアピールということでございます。(1)のポスターでのPRの古関裕而のふるさと福島市は、これは既に5月に作成しまして、掲出しているところでございまして、現在駅の地下通路なんかにも掲出したところでございますが、新たにロゴを作成しまして、ロゴを活用したポスター、ステッカー、のぼり等を作成する予定でございまして、ロゴにつきましては別紙の2でございます。別紙の2のロゴで3パターンがあります。古関裕而のまち福島市というロゴを作成したところでございます。コンセプトとしては、やはり音楽ということで、ト音記号、楽譜を生かしたトランペットとともに、先生が野球の応援歌を作成しているということでバットやボールを配置しまして、やはり動きがあるといえますか、にぎやかなイメージで、あとレトロ調といえますか、そのようなイメージでこのロゴを作成したところでございまして、古関裕而のまち福島市ということで、横バージョンと、のぼりあるいはフラッグ等に活用すると想定しまして、3パターンを作成したところでございます。

資料の3ページに戻っていただきまして、ロゴを活用したステッカーや名刺での古関裕而のまち、エールのまちの周知ということで、まずステッカーについては、市の公用車、タクシーについてはステッカー作成しながら周知していきたいということで、古関裕而のまち福島市のロゴを生かしたステッカーを今後作成していきます。なお、高速バスについても協議中でございます。名刺につきましても、市役所ではこのオリンピック・パラリンピックの名刺もございしますが、あわせまして古関裕而のまち福島市の名刺も作成しながら、広く活用を図りたいと考えております。

また、ロゴのお土産ですが、お土産の作成でございますが、実は11月のNHKエンタープライズでのエールの公式ロゴの活用の説明会においては、その時点ではそば、うどんと穀物を生かしたものであることだったのですが、エールの公式ロゴの活用は、その後NHKのほうでエンタープライズ等で交渉しまして、せんだっても報道ありましたが、商品としてはお菓子のほうへも拡大になってきたというようなこともございます。ただ、なかなか活用し切れないということもありますので、この福島市でつくりましたロゴを生かした商品開発も行っていきたいということで、12月13日に観光コンベンション推進室主催で説明会を、市民の団体向けの説明会を実施したところでございまして、今後におきましてはエールの公式ロゴと古関裕而のまち福島のロゴを生かしての商品開発が出てくるのかなというところである、そういうふうになっているところでございます。

ロゴを活用したポスター、のぼり、横断幕の作成でございますが、まずポスターにつきましては、中段の左側でございますが、ようこそ2020年連続テレビ小説エールの舞台、古関裕而のまち福島市へ

ということで、なお中段の福島自慢、花のおもてなし、これは今ちょっと構成を考えているところでございまして、これはこのとおりにならないかもしれません。今のところ、例えば満喫絶景とか、満喫夏の逸品モモとか、そのようなキャッチコピーは今検討中ですが、上に古関裕而のまち福島市、中段に花、モモ、温泉を生かした福島市のPR、そして一番下に新幹線発車メロディー栄冠は君に輝くの説明をしまして、このポスターにつきましては駅中心に掲出する予定でございまして、福島駅とは協議が済みまして、新幹線の上がる階段の両側とか、エスカレーターおりたところの正面とか、あとはコンコース、あるいは東西の高架橋の部分ということで掲出をするということで協議が済んでいるところでございまして、今後作成して、早ければ1月中には掲出していきたいということで考えているところでございます。

右側ののぼりにつきましては、先ほどのエールの舞台、古関裕而のまち福島市ということで、これ11月の段階ではこののぼりで作成しようと考えておりましたが、最近になりまして、NHKより、NHKのエールの公式ロゴも2月あたりからは使用が可能というような情報がありましたので、現在NHKと協議中でございまして、この記載のこののぼりの下に、例えばエール等を入れまして、両方入れたようなのぼり等も検討しているところでございまして、こちらについてはNHKのエールの使用が開始になった段階で掲出できればということで、今NHKと協議しているところでございます。

中段に、下のほうにポスター、のぼり2としまして、NHK公式ロゴを使用した相互協力ポスターとありまして、3月中旬より掲出可とありますが、こちらについては左側にあります写真にあるポスターが、これが今甲賀市で実際に掲出されているNHKの公式のポスターの下に、左側に赤くなりまして、ちょっと見にくいのですが、スカーレット、滋賀県甲賀市とありますが、上がNHKの公式のポスターなのです。その下にその該当市の情報を入れるポスターの作成が可能ですので、のぼりもそうでございます。上にスカーレットの舞台、甲賀市へようこそ、ありますが、このような形でのNHKと協議の上で相互協力ポスター、のぼりを作成も考えているところでございまして、こちらは3月中旬以降の掲出になるかと思いますので、町なかにおいてはのぼりやこのような来年度のエールのポスターなんかを3月以降掲出しまして、エールのまち福島、古関裕而のまちの景観を創出していきたいと考えております。と申しますのも、スカーレットが今放映中ですので、スカーレット放映中にエールの宣伝がなかなかNHKでもできにくい、しないということなので、そのようなことでNHKと取り組んでいるところでございます。

4ページお開きください。先ほどのポスターにつきましては福島市でございますが、そのほか、丸の2つ目として、駅東口から駅前通り、レンガ通り、県庁前でのフラッグの掲出とあります。こちらについては、せんだっての12月補正予算で古関裕而ストリートのお話をさせていただきましたが、下にありますが、古関裕而ストリートのところでご説明を申し上げたいと思っておりますが、フラッグにつきましてはこのように、エールのまち、舞台、福島市ということで、先ほどの駅の部分の下の栄冠は君に輝くがないものでデザインしますが、なおこちらにつきましてもエールの公式ロゴを下のほうに入れ

ることが可能ということもありますので、現在NHKと協議しているところがございますので、協議が調い次第、そのような作成しながら、掲出できる時期になれば掲出していきたいというふうに考えております。

7番のNHKウイークリーステラの発行でございますが、こちらはNHKウイークリーステラというNHKの広報冊子でございますが、これは甲賀市で作成したスカーレット版でございます。スカーレットの特別編集版でありまして、多分エールの特別編集版になるかと思いますが、最初の部分はスカーレットの粗筋やキャストでございます。その後段が、これは甲賀市でございますが、このような市の観光とか情報を入れる広告になっておりまして、8ページのうちの4ページが連続テレビ小説、残りの4ページが当該市の情報を入れるということでございます。こちらについては、3月号ですので、3月末の配布になりますが、12万部を作成しまして、首都圏、関連都市や古関裕而氏のゆかりの地や事業所等へ配布する予定でございます。

2番の古関裕而氏ゆかりの地、古関裕而氏ゆかりの地をめぐるということで、A4両面の資料でございます。これは、古関裕而氏ゆかりの地をめぐるということで、福島商工会議所が作成したものでございます。こちらのベースとしましては、生誕100周年記念でつくったゆかりの地マップってありまして、それをもとに商工会議所で作成しまして、これも配布をしているところがございます。見ていただきますと、ゆかりの地、このような福島市街地及び茂庭の摺上川のさくらんぼ大将も含めたゆかりの地を作成してやっているところがございます。もう一つは、古関裕而氏ゆかりの地ということで、県内版ということで、これは県の、福島県が作成したものでございますが、こちら現物でございますが、古関裕而ゆかりの地マップと、県も作成していただきました。これにつきましては、ちょっと手元にないので、申しわけございませんが、こちらは川俣、本宮、小野、猪苗代それぞれ入れまして、作成しているところがございます。なお、今後、観光コンベンション協会におきましても古関裕而氏あるいはエールまち歩きマップを作成予定というところがございます。

(2) 番の古関裕而関連モニュメント整備でございますが、まず駅の東口のモニュメントにつきましては、ちょっと塗装が剥げていたところもあったので、これについては修繕済みでございます。生誕の地のモニュメントにつきましてもメロディー装置が故障していて、音がなかなか鳴らない等ありましたが、これも修繕済みでございます。今後におきましては上記のモニュメントのメロディーの間隔、今1時間と3時間になっていますが、これを30分間隔に短くしまして、なるべく音が聞こえる機会を多くしていきたいということで取り組んでいきたいと考えております。

3番の古関メロディーが流れるまちでございますが、ゆかりの地の修繕は記載のさっきの部分でございます。

レンガ通りまでの古関裕而ストリートにつきまして、これ12月補正予算を承認いただいたところでございますが、その際ちょっと図面なかったのが、今回図面を作成させていただきましたので、別紙の3を、A3判でございます、ごらんいただきたいと思っております。補正予算の説明でも説明させていた

だきましたが、駅前通りとレンガ通りまで、まずフラッグ、先ほどのフラッグにつきましては駅前通りの南側でございます。南側の歩道の掲示するフラッグのところに古関裕而氏の先ほどのまちのフラッグを掲出していきたいと考えております。レンガ通りにつきましても、現在ホテルサンキョウさんのフラッグが掲出されておりますが、レンガ通り振興会との協議をさせていただきまして、古関裕而氏のフラッグを掲出するという承認をいただいたところでございます。なお、せんだっての12月補正予算でご質問いただきました楽曲再生装置につきましては、固定と説明させていただきました2台につきましては記載の緑のところでは設置を検討していきたいと考えています。なお、この緑のところにつきましては、電線が地下埋設になっておりまして、東北電力とその地下からの立ち上げ等の協議が必要になりますので、なかなか短期間ではちょっとできないところがありますが、12月補正予算を承認いただきましたので、今後、設置に向けて取り組んでまいりたいと考えております。それと、車どめへの古関メロディーの曲名掲示ということで、レンガ通りに車どめが立っていますが、そこに、景観を配慮した形でございますが、曲名の紹介なんかもできればなということで検討してまいりたいというふうに考えているところでございます。それとあと、チェンバおおまち、赤のところでございますが、ここはエールの企画展示につきまして、NHKの広報を展開するサービスセンターと協議をしながら、エールの企画展示はチェンバおおまちでしまして、古関先生の生誕地の地を中心としたところにつきましてさまざまな情報を展開していきたいというふうに考えているところでございます。

4 ページの一番最下段の商店街等における古関イベントの検討とありますが、こちらについては市商店街連合会を中心としまして、古関裕而ストリート周辺の商店街にぎわいプロジェクトを今検討中ということでお話をいただいているところでございまして、古関裕而ストリートからの回遊ということで、駅前通りや並木通りへの周遊等につきまして、古関先生が生活した昭和の福島や、あるいは古関裕而先生の内容と商店街のさまざまな取り組みをあわせまして、町なかのにぎわいを創出する取り組みを検討しているということで話を伺っているところでございます。

5 ページお願いしたいと思います。メロディーバスの導入、交通アクセスでございますが、(1)の古関メロディーバスは先ほど説明したとおりでございますが、エールのラッピングバスについては、これ早目の運行へ目指しまして、現在福島交通と詰めているところでございまして、エールのラッピングにつきましても、NHKのサービスセンターとの連携になりますが、運行を進めていきたいというふうに考えてございます。なお、飯坂電車につきましては今検討中でございまして、福島交通と協議を進めているところでございますが、記載の写真についてはスカーレットの信楽高原鐵道のラッピング電車でございます。これは、NHKのサービスセンターの事業として、連携事業として進めたということで、実はこちらのスカーレットの右側のほうなのですが、この部分、右側にちょっと囲んでいる、実はここに主演の戸田恵梨香さんのサインが実際にありまして、イベントで来られて、サインをしているというのを掲示しているということでありますので、そういうのもできればなというふうには考えているところでございますが、今後協議をしてまいりたいと思います。

(2) の古関裕而氏関係スポットへの交通の充実については、記載の内容について既に取り組んでいただいたところでございます。

6 ページごらんいただきたいと思います。第3楽章、古関レガシーを生かした新たな文化、観光振興でございます。ロケツーリズムの推進につきましては、エールの放映を機にロケツーリズムの体制整備と推進を図っていききたいというふうに考えております。昨年度におきましては、映画カツベン！のロケの支援等を進めたわけでございますが、今回エールの放映を機に、ロケツーリズムを福島市として推進していくための体制整備を行ったところでございます。まず、ロケツーリズム推進会議を9月に、これは11名で構成する団体で、国、県のオブザーバー2団体を含めまして13団体で構成する推進会議を設立しまして、その下にワーキンググループ、情熱ロケ応援隊@ふくしまを同じく9月に発足したところでございます。この2つの組織によりまして、10月のエールロケを対応したところでございます。なお、エールロケの支援の専任担当ということで、観光コンベンション推進室に1名の職員を配置するとともに、観光コンベンション協会においても職員1名を専任として、体制強化を図ったところでございます。

2番のロケ情報の収集とロケ支援及び誘致につきましても記載のとおりでございますが、第1回のロケにつきましては10月に福島市で行われたところでございまして、第2回ロケの実現に向けた活動を今展開しているところでございます。できれば福島の名産等を取り上げていただくようなロケをいただければなということで推進していききたいと考えております。

このような取り組みを受けまして、矢印にありますように、今後、ロケ地、名シーン地の名所化やフィルムコミッションの推進、あるいはドラマや映画にちなんだ土産開発や食、体験コンテンツの開発などについては、このエールのレガシーとして今後推進してまいりたいと考えております。

2番の連続テレビ小説エールレガシーでございますが、(1)の記念施設の検討でございますが、記念施設といいますと、大河ドラマ館ってよくありますが、実は大河ドラマ館はあるのですが、朝の連続テレビ小説館というのはない状況でございます。といいますのが6カ月しかやらないということもありまして、費用対効果等もありまして、なかなかできないところでございますが、記念施設と書きましたが、ストーリーの展開を考慮しまして、例えば福島市の場面の出方や古関裕而先生の取り上げ状況、あるいはエール本体での盛り上がりの状況を勘案しながら、アフター展示については検討してまいりたいと考えています。これは、既存の施設等でのアフター展示等を開催できればなというふうに考えています。

あとは、出演者との交流についても、あるいは放映記念の展示につきましても、これについてもNHK及びNHKサービスセンターと情報を共有しながら、今後取り組んでまいりたいというふうに考えております。出演者のトークイベント等についても、NHK等でも展開しておりますので、連携を図りながら、ぜひできれば福島市でも開催していききたいということで取り組んでまいりたいと考えます。

3番の市民が音楽を奏でるまちについては、この中の目玉としましては、黒丸の2つ目でございます。古関裕而ミュージックフェスティバルということで、これは令和2年度に開催をしていきたいというふうに今予定しているところでございますが、駅前通りや街なか広場、古関裕而ストリートというふうに位置づけた部分を中心としまして、これまで福島商業高校の、あるいは福島工業高校とか、古関裕而楽団ということで高校生の楽団等が演奏いただいているわけですが、そのほかにもジャズ、あるいはいろんな場面で、ボサノバとかありましたが、そのような幅広いジャンルが、ジャンルが異なる古関裕而のメロディー演奏なんかで新たなフェスティバルを開催できればなというふうに考えておきまして、福島市のにぎわいの創出につながるような官民協働でのイベント事業を展開をしていきたいと考えております。

4番の古関裕而氏にちなんだ音楽祭やイベントにつきましては、これについては（1）については今現在検討中でございますが、特に黒丸の1つ目でございますが、古関裕而音楽コンクール新設の検討、これにつきましては国民的作曲家、古関裕而氏のふるさと福島ならではのコンクールということで、古関裕而氏楽曲の編曲や作曲などということで、これはそれを提供しながら、幅広く使えるような、そのような構想で今後フレームを固めていきたいというふうに考えているところでございます。

（2）番の古関裕而記念音楽祭の充実につきましても、令和2年度につきましては、通常ですと市民参加型ということで開催するところでございますが、エールを放映した記念の年でございますので、その内容を充実した記念音楽祭については検討してまいりたいというふうに考えているところでございます。

最後、7ページでございます。民間によるイベントは、記載のとおりでございます。

（4）、野球応援歌関連イベントでございますが、こちらにつきましては、これはまだ確定しておりませんが、1月の野球殿堂入りの状況を見ながら、今後は野球関連イベントについては検討していきたいというふうに考えているところでございます。

5番の古関裕而氏を生かした観光物産の振興につきましては、まず観光商品については、11月から観光コンベンション協会を、旅行代理店等との営業活動や対応窓口の一本化として、したところでございますが、11月よりその対応を開始しているところでございます。既にいろんな問い合わせ、商品開発についての問い合わせが入っているところでございまして、今後、花見山シーズンに合わせた観光とか、そんな部分が出てくるのかなと考えているところでございます。

（2）の古関氏にちなんだ土産等の開発については、上から2つについては既に発売になっております。それと、商工会議所においては、丸の3つ目で関連商品の開発支援として、ふるさとエール補助金、それと丸の下から、白丸の2つ下でございますが、11月に連続テレビ小説、エールのタイトルロゴ使用商品説明会が福島商工会議所主催で開催されたところでございます。観光コンベンション協会におきましては、丸の4つ目でございますが、講演会、朝ドラが福島にもたらす大きな波及効果を開催するとともに、今後、白丸の最後でございますが、エール関連商品開発として、福島県観光物産

館と観光コンベンション協会との協働によりまして、関連商品を開発する予定で進めているところでございます。また、飲食メニューや体験コンテンツ等の開発に向けたアドバイザー派遣についても観光コンベンション協会に今後着手する予定でございます。白丸の最後でございますが、タクシーでめぐる古関裕而ゆかりの地につきましては、こちらについては福島地区タクシー協同組合が既に商品開発に着手済みでございます。12月と2月に乗務員等の研修を行うということで、行う予定でございます。定額で回れる、ゆかりの地を定額で回る商品とか、花見山と古関裕而記念館というようなさまざまな商品開発を現在しているところだということでご伺っているところでございます。

最後の古関裕而氏を縁とした都市間の連携と交流でございますが、(1)の古関裕而氏ゆかりのまちにつきましては、記載の古関裕而ゆかりのまち協議会の設立を今後設立してまいりたいと考えております。こちらにつきましては、エール放映の令和2年度に設立をしていきたいというふうに考えております。エール放映を機に、市の歌や校歌、ご当地曲など全国の市町村に関係ある楽曲を幅広く手がけた古関裕而氏であることを見直しながら、全国的に氏の功績をたたえ、共有し、新たなまちづくり、交流に生かす取り組みを進めるということで目的として協議会を設立しようということで考えております。呼びかけ予定都市としては、①から④までを考えているところでございます。なお、この協議会設立におきましては、令和2年度には古関裕而サミットを開催して、全国的な取り組みを推進してまいりたいというふうに考えているところでございます。

最後の豊橋市との交流につきましては、既に商工会議所青年部で交流しているところでございますが、現在豊橋市のほうで、中合で豊橋物産展開催に向け、準備を進めたいというふうに話を伺っています。また、東京都の板橋区での大山商店街ありますが、こちらにおいては豊橋市の商品を例年、商品販売をしているところでございますが、こちらで共同物産展の開催ということで、3月に開催する予定で現在進めているところでございます。

概要については以上でございますが、観光面についての説明について補足があれば、観光コンベンション推進室長のほうから説明があると思います。

(観光コンベンション推進室長) 補足と言われましても、ほとんど今文化スポーツ振興室長のほうからお話があったところでございますが、もう一度古関裕而のまち・ふくしまシンフォニー、こちらのほうの資料にお戻りいただければと思います。

観光の部分につきましては、1ページ目、2の古関裕而氏の発信の中で(3)番、市関係施設における情報発信のところでございますが、①の駅西口観光案内所、こちらにつきましてはある程度具体的な進み方も出てまいりまして、案内所の中での古関裕而氏紹介コーナーの設置につきましては、12月の28日から2月の29日までを予定としているところでございます。2月29日以降につきましては、NHKのサービスセンター等とも協議をさせていただきながら、できればエールに関するような展示も進めていきたいというふうに考えているところでございます。

あと、同じく大型壁面への映画ポスター風古関裕而夫妻物語設置という、場所については先ほど説

明がございました。古関裕而氏と金子さんのお二人の写真をもとに絵を起こしていく作業とあわせて、今NHKサービスセンターのほうに交渉させていただいておりますのは、可能であれば窪田正孝さんと二階堂ふみさん、こちら2人、主人公の写真も絵に起こさせていただいて、古関夫妻とドラマ上での古山夫妻、両方載せられるようなことができないかということで今NHKのほうと交渉させていただいているところでございます。

続きまして、1枚めくって2ページ目、上から(6)、古関裕而氏の新たな顕彰の取り組みの中で、1つ目の白丸、マンガで読む古関裕而の作成ということで、我々としてはコピーしかいたっていないのですが、こちら大河ドラマの軍師官兵衛のときにつくられた漫画で見る軍師官兵衛ということで、黒田官兵衛知っていますかというような中身が漫画でありながら、あとは福岡の官兵衛ゆかりの地めぐりであるとか、あとこれは福岡のゆるキャラを使いながらご当地を紹介したりとか、あとは当然ですけれども、軍師官兵衛の説明を、ドラマの説明をしていくというようなページ構成になっておりまして、実は大河ドラマではこういった取り組みは結構あるようなのですが、朝ドラでやるのはおそらく今回が初めてになるのではないかというふうに思います。当然なのですけれども、朝ドラでなかなか史実を扱うというのは余りないものですから、近いところだと今回の古関夫妻、あとはマッサン、あときは歴史上のというか、実在した人物をモデルにしているということで、古関裕而さんを顕彰して、多くの方に知っていただくためにも、小学校、中学校にこちらを配布させていただきたいというふうに考えているところでございます。3万部作成いたしまして、小中学校全校生配布分が約2万部、残り1万部については、市内をはじめ、さまざまな場所で配布をしたいというふうに考えているところでございます。

続きまして、4ページ目になりますが、上から(7)、NHKウイークリーステラの発行ということで、先ほど齋藤室長から甲賀市でのスカーレットのウイークリーステラ、ご説明があったかと思いますが、こちらにつきましてエール版を作成すると。首都圏、関連都市、またあと近郊の道の駅等をはじめ、古関裕而氏ゆかりの地ということで学校の、小学校の校歌であるとか、そういったつくられている全国の自治体にも配布をしたいというふうに考えているところでございます。エールの舞台である福島市の紹介であるとか、魅力を広告等で掲載したものを配布させていただきます。

あと、同じく4ページの2、古関裕而氏ゆかりの地ということで、先ほど商工会議所で作成しましたゆかりの地マップ、コピーですけれども、配付をさせていただきました。観光コンベンション協会との業務になりますけれども、まち歩きができるような部分も含めまして、新たにマップの作成をしていきたいというふうに考えているところではございますが、ほかにも今町なかのそういったゆかりの地マップであるとか、まち歩きマップをつくりたいというような民間の動きも出ているところでございますので、こちらにつきましては我々も情報共有をしながら、よりよいものを協働でつくっていければというふうに考えているところでございます。

続きまして、5ページ目、4の古関メロディーバス（仮称）の導入と交通アクセスの整備の中の2

つ目の白丸、エールラッピングバスの運行ということで、こちらにつきましてもエールの舞台ということのPRと、あと窪田正孝さんと二階堂ふみさんの写真を載せたいということで、これについては現在NHKのサービスセンターと交渉しているところでございます。

あと、6ページの1番のロケツアーリズムの推進につきましては、福島市長を議長といたしまして、9月の4日に立ち上げたところでございます。説明にもありましたとおり、推進室の職員1名とコンベンション協会から専任職員1名を選びまして、NHKの全ての窓口ということで今対応をしていたところでございます。これにつきましては、将来的にはフィルムコミッションとしての役割を担っていただきたいというふうに考えているところでございます。

あと、7ページになります。7ページの5、古関裕而氏を生かした観光物産の振興というところで(1)、古関氏コンテンツを組み込んだ観光商品ということで、11月の6日の日に県で主催いたしました首都圏での旅行会社との商談会に参加をさせていただきました。約80人の方と名刺交換をさせていただきました。ロゴ使用の条件とか、あと駐車場の確保であるとか、昼食がとれる場所ないですかというような今問い合わせが入ってきているというところでございます。なお、こちらの名刺を頂戴いたしました方々につきましては、こちらのほうからも観光情報とあわせて、エールの動きであるとか、出せるものについてはメール等で情報発信をしていきたいと考えているところでございます。

あと、7ページの最後になりますが、豊橋市との交流ということで、中合での豊橋物産展の開催であるとか、東京板橋区での商店街での共同物産展の開催等について現在進めているところでございます。

あと、済みません、7ページの5番の(2)の中段ですけれども、朝ドラが福島にもたらす大きな波及効果ということで講演会を実施させていただきました。当初200名程度を見込んでいたのですが、320名の方に参加いただくということで、会場等の変更もさせていただいたところでございます。現在こちらで参加いただいて、名刺交換をさせていただいた方々でメールアドレスが記載されている方々につきましては、エール通信ということでメールでの発行させていただきました。近日中に第2弾のエール通信が発行される予定であります。

こういったところを踏まえまして、福島の事業者の方々であるとか市民の方々を巻き込みながら、おもてなしの体制づくりを進めていければというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

(二階堂武文委員長) それでは、質疑を行いたいと思いますが、ご質疑のある方お述べください。

(山岸 清委員) 質疑でないのだけれども、ちょっとした余計な意見ね。要するにNHKは視聴率うんと気にするから、朝ドラでなく、大河。大河のあれがうんと悪くて、NHK気にしているのだ。朝ドラで、朝ドラは結構企業のやつが多かったのだよね。ラーメン屋さんとか、あと洋服屋さんとか、あとウイスキー、ウイスキーなんていうのはもう売り切れたのね、あれ。ニッカ。それで、この朝ドラでエールがうんと調子いいと、今度大河ドラマもやってみようなんてなってくるのだよ。忠臣蔵な

んか何回もやっているのだからね、いろんな立場を変えて。そうすると、俺が一番心配しているのは、福島市内の視聴率は相当いいよ、朝から。だから、福島から出ていっている避難者とか、あるいはいろんな文書を出すでしょう。福島県外の人、あるいはずっと市外の人に。そういう人に、封筒の脇のほうでも何でもいから、古関裕而先生のエールが始まりましたなんて、大体わかっているけれども、もう出ていった人なんかは古関さんが福島の出身だなんてわからない人が多いわけだから、そこにちょっと福島市出身なんて書くと、全国的に視聴率、福島ばかり100%で、あちこち1%ではだめだから、やっぱりぐっと盛り上げるように、何か福島市から出す文書には、市内の人にはやることないよ。これだけあるのだ。バスから何から入っているのだから、わかっているけれども、市外の人、県外の人に出す文書には必ず封筒に入ったやつもつくって、わかるようにしてやってください。これは質疑でない。単なる提案。これだけ言っておかないと、きょう眠れないような気がして。言い忘れたなんて。本当にやってみな。そして、結構初めてだから。そうすると、古関裕而が、だってNHKでこの間美空ひばりのAIで出したでしょう、歌。結構あれ、だから美空ひばりも歌ってくればよかったのだ、コロムビアだから。舟木一夫なのだよ。舟木一夫とコロムビア・ローズなのだ。石原裕次郎はテイチクだし、困ってしまう。でも、まあいいや。言うだけ言ったから。

(石山波恵委員) ロゴのあれなのですけれども、こちらで見るとすごく両方とも、縦も横もすごくかわいくて、ぱっと目を引くのですけれども、こちらで見ると、今度こちらのほうで、のぼりの旗だと、のぼり縦でいいのですけれども、フラッグにした場合、何か後ろが全部白の、白文字のところであれなので、例えば後ろを黒にしたり、後ろのバックヤードが変わると何かもっと引き立つ場合もあるのではないかなという部分が、のぼりはいいのですけれども、このフラッグの場合というのは、このバックというのはどんな感じなのか。

(文化スポーツ振興室長) 実はこれ私たちがつくったものなので、白抜きにしていますが、実は今ポスターのほうも、花、モモ、温泉も、色も考慮しながら提案くださいということでやりましたので、同じ色にするか、あるいは3つの色があって、それを3つ並べると映えるとか、そういう形で、あとは古関裕而のロゴがオレンジ、赤、青なので、ちょっと難しいところあるのですが、そこら辺はプロの方にいろんな提案をいただいて、やはりわかりやすく、そんな形で……。

(石山波恵委員) やっぱりこのままでは何となくぼやっとしたイメージがあって、せっかくこれがいっぱいになっても、例えば外にやっているときに雨降ったりなんざりですすけてしまって、何となくそんな場合もあるので、後ろのところ、1つそこをちょっと提案というか、聞いたかったかな。

あと、もう一つなのですけれども、先ほど漫画で古関先生のをつくるということなのですけれども、これいつごろ作成の予定というか、完成はいつごろを予定しているのですか。

(観光コンベンション推進室長) 年度内の完成を目指して。

(石山波恵委員) 続いてなのですけれども、小中学生への配布で2万部、一般配布で1万部なのですけれども、この一般配布なのですけれども、1万部のところ、やはり福島の方だけではなく、例えば

NHKでドラマの終わった後すぐ、あさイチでしたっけ、そういうところで始まったときがいいのか、終わった後がいいのかわからない、福島の方から、古関先生が一目でわかる漫画が全国の方100名様に当たりますよとかといたら、子供たちとかも、あっ、では応募しようかなと全国にPRもできるので、県内だけの配布よりも、もっと全国な配布も、それもいろいろPRも子供たち、漫画も全国に発信したほうがいいのではないかななんて思ったので、検討をお願いいたします。

以上です。

(二階堂武文委員) それでは、先日ちょっと新聞にも出ましたが、2年間下宿した川俣町のことが新聞記事に出まして、実はその新聞記事が出る数週間前に、下宿をした方のご家族の娘さんのちょっと講演を聞く機会がありまして、いろいろやっぱり結構有名になってからも川俣町、その若いころ2年間お世話になったところをお訪ねになったりなんかして、いろいろ交流がその後もあったというようなこともちょっと、講演といてもお酒を飲みながらの本当にちょっと短いお話、趣味的なお話ではありましたが、聞く機会がありました。そういった意味では、川俣町なんかも大分力を入れて考えていらっしやるみたいですので、そういった面での地域間の交流とか連携という部分でも、何かお考え、考えられていることがあればと思ったのですが。

(観光コンベンション推進室長) まず、福島市が事務局になりまして、県北8市町村での圏域の連携の福島県北8市町村の協議会を設立しているところでございます。川俣町さんにかかわらず、この8市町村でもいろいろ古関裕而さんにちなむような掘り下げを今投げかけをしているところでございまして、何かの形で公表していければというふうには考えているところでございます。

あと、ロケは、残念ながら私どものほうに川俣町でのロケのお誘いはなかったのですが、こういった場所がないですかといったお誘いがあったときは、福島市だけではなく、県北8自治体も含めながら情報提供させていただいたところではありました。そのときに残念ながら川俣町に対する情報提供はできなかったのですが、そういった中で少しでも圏域で使っていただけるような情報発信はNHK側にもしているところでございます。

(二階堂武文委員) ありがとうございます。

それと、古関さんに絡んで、商工会議所さんなんかもいろいろマップをおつくりになったりなんかしていますけれども、結構テレビドラマ、エールをごらんになって刺激を受けて、いろいろもっと知りたいみたいな、古関さんについて知りたいみたいなときになったときに、やはりご当地ならではの意外とマニアックな情報というか、エピソードを集めていらっしやるとか何かというのもありましたけれども、いろいろ自伝であったり、古関さんの、齋藤秀隆先生の書物であったりしても、日野屋楽器店で、コロムビア専属を記念したレコード発表会が日野屋楽器店で盛大に行われて、当時の写真が本に使われていたりしていますし、飯坂でやっぱり宿をとったとき、お世話になったときに、旅館花月さんにお世話になったり、当時の村島先生ですか、村島病院の先代の先生との親交があったりとか、いろいろ読み進めていくと、今とつながっていく設定がいっぱいあって、そういったものをうまくつ

なげていくと、結構、これは今生きている市民の方、今いらっしゃる市民の方も、ああ、何だ、村島先生の前のおじいちゃんとかこんな親交があったのかとか、この辺に家族の方が疎開されていて、結構宿をとっていらっしゃったのかとか、ああ、これと高湯の花月って、経営者かわりましたけれども、つながっていくのかなとか、いろいろ深掘りしていくと、またおもしろいネタが、意外となさそうで、今とつながっていくようなことっていろいろ見つけることもできるかなという気がちょこっとしまして、その辺も何かつなげていければ、皆さんの興味に答えていけるのかななんてちょっと思ったものですから、意見を述べさせていただきました。

以上です。

（山岸 清委員）今の話だけれども、ちょっとくらいオーバーにやったほうがいいのだ。東北の人らは真面目だから、エピソードだの、だって弁慶が座った石ですとか、本当だろうか、この石を持ち上げたのだから、うそばかり言うようなやつが出ているわけだから。赤穂浪士だって、大体が本当だからうそだかわからないようなのがうまく作家がつくってやっているのだから、ちょっと脚本オーバーにして、飯坂に行ったらやっぱり川又肉屋のコロッケ食ったのだからって。スポンサーだよ。大スポンサーだよ。続いて、私も毎回ここで言っているのだけれども、議会で、米沢だって米織着てやったり、ハワイアンセンターだとアロハ着てやるでしょう。そうすると、その都度テレビに出るのだ。私たちの市は真面目だから、普通にやっているのだ。だから、今回選挙のとき、俺、ああ、来年はエールだから、六甲おろし歌いながらやったらいいのではないかなんて私のほうで言ったのだ。そうしたら、ウグイスさんに大反対されて、真面目さが足りないなんて。それで、あんなに票ぎっちり減ってしまって、まずかわいそうなものだけれども、ただ福島市議会で決議して、選挙運動は古関裕而の楽曲を使うべしなんていう決議したら、NHK撮りに来るよ。おもしろいことをやっているなんて。やっぱりこういう発信を、当局の人ら一生懸命これだけやっているのだから、議会も何か議会開会時には委員長が歌を歌うとか、どうだい。

【「体操言ったじゃないですか」と呼ぶ者あり】

（山岸 清委員）いや、違う。そのときは波恵さんのダンスも入ります。ああなんてやって、そしてそういうのを見ておもしろがる人もいるのだ。ひんしゅくを買う人もいるけれども。これは余計なこと。

（二階堂武文委員）先日委員会のほうで古関裕而記念館を見てきたときに、ちょっと後でいろいろ感想等が出たことでもあるのですが、今回も校歌をいろいろ集められたりなんかしているのですが、これをどう使うか、どう有効に使うかといったときに、古関裕而記念館に行ったときに、1曲100円のジュークボックスがあると、そしたらジュークボックスをじっと見たら自分の学校の校歌が中に入っていて、そこで思わず発見というか、喜びがあるということで、県内はもとより、県外の方なんかでも、そのジュークボックスの100曲とか200曲の中に自分の高校の名前とか会社の名前があったりして、社歌があったりして、そこでの発見と喜びは相当記憶に刻まれるのかなというのがちょっと出ました。

何かの参考になればということで。

(小松良行委員) これちょっと思ったのですけれども、まちづくりとかとなってきたときには、きょうの説明は商観メインになるのかなと思っていたのですけれども、ほぼほぼ市民・文化スポーツというのは、オリパラがあるからこちらに寄せているとかって、やっぱり仕事上の何か区割りとかというのはあるのかな。というのは、こっちの古関裕而関連事業についての説明の部分については非常に部署的にはマッチングするのですけれども、いわゆるまちづくりに関する部分というのは何かこっちが主体になるのではないのかなとかと思ったのですが、その辺の線引きって、まず基本的にどういうふうに分けているのですか。

(文化スポーツ振興室長) 基本的に、先ほど部長からありましたように、古関裕而先生にちなんだ、例えば古関裕而記念館もそうですけれども、あとはストリートもそうですけれども、どうやって古関先生の業績、功績を顕彰して、それを広めていって、市民の皆さんと共有していくかというところについては、これは市民・文化スポーツ部。あと、今言ったように、エール、来年度に関しましてはエールということでの本当に観光的な要素が多分が大きくなってきて、それとともに今まで取り組んでいなかったフィルムコミッション、本格的に取り組むのは今回初めて。今まで映画のロケはありましたが、組織立ってやるというのがなかったのですが、それを今回進めるということで、2本立てになるのですけれども、エールをもとにした呼び込むためのおもてなし関係とかのその組織の民間の皆さんとの一緒にやっていく取り組みとか、フィルムコミッションの取り組み、それとNHKのサービスセンターとかでのエールに関しての広報展開に関しては、これはやはり観光とかおもてなしに直結するものなので、それは商工観光部ということの今色分けをしているところでございます。

(小松良行委員) それから、さまざま今後エールに関して、いわゆる放送、出演する出演者の写真とか、あるいはエールという言葉を使うにしてもそうだけれども、オリパラの場合だと、マーク使ってはいけない、何使ってはいけないと非常に制約が厳しいところではあるのですけれども、今後、例えば駅のほう、西口のほうですか、何かご寄贈いただくのだから何か、制作を、モニュメントを制作するということがありますけれども、こういったものに関しても、NHKのどこか窓口があって、そこに交渉して、そのときにお金とかってかかるのですか。というのは、この後いろいろ聞きたいことは、今後、エールに関する表記や、あるいは商品というわけではないのですけれども、さまざまにNHKに一々商標をとったりして、お金というのかかるのかなというのがちょっと心配になったのですけれども、その点はどうなのですか。

(観光コンベンション推進室長) いわゆる連続テレビ小説、エールとしてのNHKで作成している公式ロゴについては、NHKのエンタープライズが所有をしております、その使用の許諾についてもNHKエンタープライズのほうに申請するようになります。新聞等々でも報道はされていたかとは思いますが、11月の25日にその公式ロゴの使用の説明会が第1弾としてありました。そのときは、齋藤室長からも説明があったのですが、いわゆる穀物を使ったパンであるとか、うどん類でしか使えま

せんよ、あと旅行の商品の中で何かそのロゴを使うのは構いませんよ。これは、ほかにエールという名前、文字を使った商標登録をされている商品がたくさんあるということで、NHKとしてはその商標をとれなかったというのが事実でございました。ただ、その後、12月に入りまして、今度は福島市でつくった古閑裕而のまち福島のロゴの説明会をする段階になりまして、NHKのほうから、お菓子類についてもこのNHKの公式のロゴは使えるようになりましたと、NHKがその商標を持っている事業者さんと交渉しまして、どうぞ使ってくださいというような話になってきております。NHKの公式のロゴを使う際には、基本的には3%の使用料をNHKのエンタープライズにお支払いするようになってまいります。ただ、我々が、公的な機関が当然営業目的ではなく使用する場合には、それは申請をして、許可をいただければ無料で使えるというような状況でございます。あと、細かくどういった商品にどう使うというものによっては、3%ではなくて、もうちょっと計算の方法とかも変わってくるというふうには聞き及んでいるところでございます。

(小松良行委員) さまざま今後、まだばくつとですけども、事業の計画などの一端もお話しいただいておるところですが、今後これを事業として本市が、共催するものもあるのでしょうか、予算化される予算規模というのはどのぐらい見込んでいらっしゃるのですか。その後また聞くのですが、要は費用対効果ですよ。この宣伝効果によってどれだけの経済効果が生まれるのかなという見込みとかというのはお持ちだったら教えていただきたいなと。

(観光コンベンション推進室長) 実は経済効果につきましては、なつぞらの十勝では日本銀行さんで経済効果を試算して、95億円というようなお話がありました。ちょっと範囲が十勝地方全体なのかどうかという部分はあるのですが。私どもも日銀さんのほうにちょっとお願いをしまして、何とかできれば放送前に経済効果の試算とかできませんかというお話をさせていただいたのですが、やる、やらないも含めまして申し上げられませんというようなちょっと冷たい回答がございました。ちょっと言っていないのかどうかあれだったのですが。ただ、エールの11月15日の説明会をさせていただいたときに、日本銀行の方がいらっしゃってございまして、ちょっと質問の内容は忘れたのですが、何やら十勝の方に質問されていたので、せっかくその現場まで来ていただけましたので、ちょっと私どもとしては淡い期待を今抱いているところではございます。それについては、日銀さんのほうからは、まだ12月の補正予算しか我々エールに関しては出しておりませんが、観光側としては、例えば当初予算で幾らぐらい市としては予算をかけていくのであるとか、そういったところを教えていただくことはできますかなんていうような打診も来ておりますので、その辺もう少しプッシュをしながら、ぜひとも経済効果については出していただきたいなというふうに考えているところでございます。

(小松良行委員) 来年度に向けた目玉事業で、でもこのぐらい拠出しなければならなく、だってもう概算的にはある程度考えていなければならぬ時期ですよ。そこら辺の予算規模とかというのはまだ考えていない、出てこないですか。出てこないというか、今頭の中にはないのですか。交渉中であるのでありましようけれども、どのぐらい予算規模の、拠出。

(観光コンベンション推進室長) 非常にざっくりとした数字で、観光コンベンション推進室といたしましては、さまざまな観光コンベンション協会への委託であるとか、そういったものも含めると、財政の当然査定も前ではございますが、3,000万円程度の予算を出すことができたらというふうによつと考えているところではございます。

(二階堂武文委員) 先ほどのご説明の中で、永遠に響け、古関メロディーのとき、有料化ということで、1,000円の入場料で、昼夜で1,700人ぐらいというようなお話でした。私もお招待いただいて、聞かせていただきましたけれども、実際このときは、お金を取った方、1,000円払って入られた方というのは大体どれぐらい1,700人の中でいらっしゃったのですか。

(文化スポーツ振興室長) 申し込みというか、今回チケットを購入された方、昼が856名、夜の部は816名になります。

(二階堂武文委員) 872名。

(文化スポーツ振興室長) 856と816です。

(二階堂武文委員) ごめんなさい。1,672名。

(文化スポーツ振興室長) そうです。

(二階堂武文委員) ということは、1,000円掛けると、167万円ですね。

(文化スポーツ振興室長) はい。

(二階堂武文委員) 私も聞かせていただいて、特にY a eさんと山形交響楽団で歌った曲が、今聞いても全然すごくインパクトがあって、これCDか何かにして売り出しても売れそうなどという、すごい迫力もあったし、聞き応えもあった曲だなとすごく思って感動したのですけれども、ああいったものというのは、別に何かいい作品はCDにして売るとか、山形交響楽団さん、私は初めて聞いて、すごく、指揮者の方も含めて、すごいなど、迫力あったなと思ったものですから、ちょっと。

(文化スポーツ振興室長) 今おただしの件については、販売とか、録音したものを製品化してということはおしておりません。

あと、山形交響楽団につきましては、プロの楽団ですので、仙台と同じく、プロの楽団ですので、それなりの歴史があって、やっていて、いろんな大阪とかも行ってやっているといるという楽団ですので、それなりのやはりレベルなのかなというふうには考えています。

(二階堂武文委員) その有料化ということについては、今後やはりそういった著名な方を呼んでの催しとか何かについては、有料化路線というか、そういうのは今までも、これからも、そういうのというのはあるわけですね。

(文化スポーツ振興室長) それにつきましては、最後に記載したとおり、来年度、令和2年度以降、それから今回生誕110周年ということで、鑑賞型ということで記念音楽祭を開催したわけですが、通常ですと市民参加型があって、また鑑賞型とありますが、その持ち方も含めて、これから、有料化の問題も含めて、検討していきたいということで今進めているところではございます。今後、もとに戻すよ

うにするのか、あるいは今回の例、有料化初めてでも皆さんからかなりの好評をいただいているところもございますので、それも踏まえて、実行委員会等において検討してまいりたいということで、まだ方向性は出していないということもございますが、そういう形で進めたいと思います。

(川又康彦委員) ご説明いただいたロケツーリズムの推進という中で、今回特にエールのロケについてバックアップしていくという体制づくりをされているというお話あったと思うのですが、具体的に古関裕而さんのエールについては、あくまでも生誕ということで、福島にいる時間というのは非常に短い。どういうふうにかかわりを持たせていくかによって、福島、例えばエールを見た方が実際に福島に行ってみようという気になるかというのは、そこに非常に大きい要素があるのかなと思ったのですが、第2回以降のロケ情報の収集、誘致というのは具体的に今どの辺まで進んで、お話しできる部分で、こういったものがあるのですか。

(観光コンベンション推進室長) まず、状況という部分でお話しさせていただきますと、いつ、どこで、どんなロケをしますよというのは全く白紙の状態でございます。ただ、NHK側といたしましては、第1回目のロケをしたとき、10月の11日から18日にかけて、状況については当然台風19号が来ている中でございました。その中の11月の12日に実は民家園の、名前はあえて言わないのですが、古い芝居小屋でロケが行われておりまして、そこで民家園を使ってマスコミを集めて、キャストも出て、そこで現場で取材会をする予定だったのです。それをやることで、その段階で、ばっと福島のロケをしましたというのが全国に広まる予定だったのですが、残念ながらその取材会は開かれることはありませんでした。NHK側としては、何とかもう一度、単なるドラマでのシーンだけではなくて、もう一度福島でロケをしているよというところを光を当てたいということで、NHK側として、やっぱり2回目のロケはしたいというふうに強く考えていただいている。我々も今月、その専任者を含めまして、東京のスタジオのほうに行っていただきまして、福島のリンゴ、福島の物産ですということでアピールをしながら、何とかもう一度ロケのほうをさせていただきたいというふうにはお話をさせていただいたところでございます。あと、事あるごとにNHKの窓口の方と連絡をとる際にはそういった話をさせていただきながら、福島への第2回目のロケ誘致に努めているという状況ではございます。

(川又康彦委員) そうすると、やって、あと1回やればいいのかという感じなのですか。2回ぐらいが限界という。例えば今やっている信楽の、やっている場所がもう信楽なので、これはやっぱり強いですよ、ずっといるわけだから。火まつりとか、そういった部分も多分現場でやったのかなというような雰囲気もある中で、やっぱりあと1回ぐらい。例えばご本人はいないけれども、ご両親、どなたでしたっけ、薬師丸ひろ子ではなくて、誰だかな、役だったと思うのですが、そういった方は福島にいる設定なのだと思うのです。そういうのをどういうふうにしていくのかとか、そういうものも含めて誘致活動にぜひうまくつなげていただきたいと思いますとは思っているのですが、

(観光コンベンション推進室長) ロケの回数につきましては、我々も何ともそこは申し上げられるところでもないですし、では3回目、4回目というような話は、実はNHKからはいただいております。

ん。何とか2回目もしたいとは思っているのですというところでとどまっているのが正直なところでございます。脚本の内容も我々教えてはいただいていないですけれども、サービスセンターの広報担当の方との話をするにあたっては、東京には主人公2人がいるのだけれども、せりふ回しであったり、ぼろっと出てしまう福島弁だったりとか、そういったところでドラマの中で福島を強く意識させるような場面は出していきたいというふうなところはお話を聞いている状況でございます。あと、NHK側の仕掛けになってくるかとは思いますが、ほかの地区の事例とかを見ますと、何らかの機会を捉えて、主人公であるとか、脇役になりますけれども、その俳優さんが現場に、現地に、例えば福島のほうに来て、何かイベントに参加するとか、そういった仕掛けをタイムリーにさせていただけるのではないかなというふうには思っているところでございます。

(川又康彦委員) 実際にロケをする際というのは、時代考証みたいな部分で古い建物が、では実際あるのかというところの手玉を福島市として、こういったのがあるのだけれども、使えないかという形で、当然今も提示されているとは思いますが、エピソードに乗った部分とかで、例えば先ほど二階堂委員長からも話ありましたけれども、飯坂に来ていただいて、それが縁で飯坂の小学校の校歌をつくっていただいて、奥さんとお子さんが一緒に飯坂小学校で披露するような、そういった場もあったりなんかもしているものですから、例えば古い建物でいうと、茂庭の小学校とか、福島市が今実際に活用できる……。

【「中学校」と呼ぶ者あり】

(川又康彦委員) ごめんなさい。中学校ですね。中学校のほうとか、そういった時代考証的にも合うような建物を所管さんのほうでもいろいろピックアップしていただいて、こういった手玉がありますよということはぜひお示しいただいた上で誘致していただきたいと思っておりますので、よろしく願います。

(二階堂武文委員長) ほかいかがでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) 特になければ、質疑を終結いたします。

そのほか、皆さんから何かございましたら。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) なければ、以上で当局説明を終了いたします。どうもありがとうございました。

当局の皆様におかれましては、お忙しいところ、ありがとうございました。今後もさまざまな部分でご教示いただく機会があるかと存じますので、その際はまたどうぞよろしく願います。

ここで、当局退席のために暫時休憩いたします。

午後 3 時 12 分 休 憩

午後 3 時 15 分 再 開

(二階堂武文委員長) 委員会を再開いたします。

それでは、本日の当局説明の意見開陳を行います。本日聴取した項目に関してご意見のある方はお述べください。

(山岸 清委員) さっきも言ったように、視聴率をアップするように、やっぱりみんな遠くの、福島の人らはみんな見ると思うのだ。だから、遠くにいる、我が家だと息子群馬にいたり、あとは弟船引にいるから、そういうところに電話して、選挙と同じく、エール見ろよと、こうみんなで声かけしなければ、全国的に視聴率上がらないとだめだよ、やっぱり。大河ドラマもやってみようなんて、すごく視聴率上がって、50%いったなんていうと大河ドラマ化だよ。忠臣蔵と同じだ。何回目になる。忠臣蔵なんて、あっちだ、こっちだ。今度明智光秀中心の忠臣蔵になるとか、いろいろあるでしょう。川又さんもスポンサー、NHKに、どんと肉を持って行って、コロケ、飯坂温泉に来たら川又肉屋コロケを食べておいしいなんて、これだけすごい宣伝だよ。

(佐々木優委員) 本当にさまざまな数多くの事業を考えられているということで、本当にあれらを使ってどういうふうに福島市を元気にしていくかということ、そしてエールと相まった相乗効果もだし、その後のこともやっぱり考えていかなければいけないなというふうに改めて思いました。なので、多分今は当局もすごく目の前の仕事量にいっぱいいっぱいだと思うので、私たちもそういう効果、よりよく効果が出せるような調査をできたらいいなと改めて思いました。

(二階堂武文委員) 私も説明いただいたボリュームが当初考えていたよりも随分ボリュームがいっぱいありまして、単に朝の連続ドラマでやってきたこと以外にも、大河でやってきたことで使えることはないかとかって、一見すると本当にボリュームが多いというか、意欲的なのですが、反面、当局で今後やられることと、市民の皆さんが本当についてこれるかどうか、余りにも数が多過ぎてしまって、あれもこれもなくなってしまって、当局もその作業に追われてしまう。市民の方と共同歩調でまち全体が盛り上がっていくようなものをつくっていくという視点が、そこが手薄にならないようにしていかなければならないところがあるかなというのはちょっと感想として感じました。

(山岸 清委員) 役所にすれば初めてのことだからね。

(小松良行委員) でも、どんな物語になるのかね。全然何か。だって、いいところのぼんぼんだったわけではないですか。こうやって作曲家として立派な活動をなされてきた方で、それは尊敬する方なのですけれども、大概は子供のとき貧しかったとか、非常にかわいそうな生い立ちだったり、いろんな苦難を乗り越え、さまざまな人たちとの出会いから出世していくという、何かそういうふうに、出世物語という、古関裕而先生ってどういう描かれ方するのかというのがぴんときないね。

(山岸 清委員) だって、最初から天才なのだから。大体ドラマのマッサンにしろラーメン屋さんにしろ、いろいろ苦労して、カップヌードルやって、苦労してやっているあれでしょう。だから、日清食品にすれば歴史だな、あれ。だから、これ最初から天才少年だから。

(石山波恵委員) お家も恵まれていましたものね。

(二階堂武文委員長) ドラマにすればそういうのは必要でしょうし、私どもはちょっと苦勞していないように思うのですが、古関少年はやっぱりすごく苦勞したり、試行錯誤して、作曲家として自分で手勉強で育っていく過程があったからこそという部分はありますからね。

(山岸 清委員) だって、奥さんなんか熱烈なラブレターで押しかけ女房だ。俺みたいに何回も見合い失敗しているのと全然、俺の見合い失敗の物語のほうがおもしろいよ。30回だからね。何だかんだ言ったって。

(二階堂武文委員長) では、大体よろしいでしょうか。途中であれですけれども。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) では、なければ、次回以降の委員会で、本日いただいた意見のまとめを行いたいと思います。

続きまして、行政視察についてを議題といたします。

前回の委員会で視察の日程と視察先をお伝えしたところでございますが、行程と各自治体での聴取事項の案がおおよそ固まりましたので、お手元の経済民生常任委員会行政視察日程案をごらんいただきながら確認してまいりたいと思います。

書記より簡単に行程を説明ください。

(書記) それでは、お手元にご置きます経済民生常任委員会の行政視察について(案)をごらんいただければと思います。

まず、1番目の日程からでございますが、大変申しわけございませんが、月曜日からの出発ということでお願いできればと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。2月3日月曜日から5日の水曜日というふうになっております。

2番の行政視察先でございますが、これは前回の委員会でも委員長のほうからお話しさせていただきましたように、1日目が浜松市、2日目が岡崎市、3日目が恵那市ということになっております。

まず、1ページ目の浜松市からごらんいただければと思いますが、こちら浜松市における音楽によるまちづくりの取り組みについてということで大きな聴取テーマを設定しております。聴取内容につきましては、こちら記載のとおりでございますが、楽器のまちとして、市の特性を生かして、昭和56年から取り組んできました浜松市における音楽のまちの取り組みの経過と概要ということで、記載の5点を聴取してはどうかということで記載しております。

2月3日の行程につきましては、この1ページ目の下に載っておりますけれども、8時に福島市を出発いたしまして、午前中には浜松のほうに着いて、午後一番で浜松市役所のほうで視察をする予定となっております、この日は岡崎市まで移動しまして終了ということになります。

続きまして、2ページをごらんください。2ページ目につきましては、2月4日火曜日ということで、こちら岡崎市での視察になっております。こちらの聴取の大きなテーマとしましては、音楽の力で進める地域の活性化ということで、ジャズのまち岡崎の取り組みについてということでございます。

こちら前々から視察先の情報提供させていただいておりますが、内田修ジャズコレクションということで、そういった貴重な収蔵を市としてどういうふうに生かして、それを中心として岡崎のジャズストリートであったりとか、そういった部分にいかに取り組んでいるのかというところを見に行ければということで、こちら記載の5点を考えております。こちら視察時間につきましては、9時半から12時ということでちょっと長目に設定しておりますが、こちら米印のところに書いてございますように、まず座学をした後に内田修ジャズコレクションのほうを実際に視察できるような段取りをしてございましたので、こちらのほうもあわせて視察するというところのこういった時間となっております。

2月4日の行程につきましては、こちら記載のとおりでございます、午前中のうちに岡崎市のほうを視察して、お昼まで視察をしまして、昼食をとった後、今度午後は移動ということで、最終日の目的地であります恵那市のほうに向かうような日程となっております。

続きまして、3ページ目のほうをごらんいただければと思います。こちら2月5日水曜日ということで、最終日、岐阜県恵那市となっております。こちら聴取する大きなテーマとしましては、朝ドラ放映を生かしたにぎわいの創出の取り組みについてということで、こちらは2018年の上半期だったかと思うのですが、半分、青い。の舞台となったところでございます、放送から約1年半、2年近くたつような状況になりますけれども、放映中の取り組みであったり、あとは1年たった後の現在の状況なんていう部分もあわせて聴取できるのではないかとということで、こちらのほうを組ませていただいております。聴取内容としましては、観光客の受け入れ体制の整備、にぎわいの創出の取り組みほか、こちら記載の3点、大きく3点となっております、先ほどの当局説明でも、地元の商店街と協力しながら、市民協働でいろいろにぎわい創出の取り組みをしていく予定だなんていうような話も当局説明しておりましたけれども、まさにそういった取り組みの内容であったりとか、そういう部分が聞けるのかなと。あと、朝ドラ放映後の市の取り組み、反省点や課題などもあると思いますので、そういったものを踏まえての今後の取り組みという部分も聞けるのかなと思ひまして、こういった聴取内容としているところでございます。

2月5日の最終日の行程でございますが、視察先の受け入れ先の都合で9時からということで、ちょっと早目の時間設定になっておりますけれども、午前中のうちに視察をしまして、その足で、あと午後帰ってくるというような流れになっておりまして、到着時間等々はこちらに記載のとおりとなっております。

簡単ではございますが、以上が行政視察先の行程の内容、あと聴取内容ということで説明させていただきました。

以上でございます。

(二階堂武文委員長) それでは、行政視察の行程については3日間、このような流れで移動できればと考えているところです。また、各自治体での聴取事項についてはここに記載のとおりですが、このような内容でよろしいでしょうか。

(山岸 清委員) おおむねいいのですが、せっかくこれ豊橋、これは乗りかえだから、この時間なのだけれども、豊橋まで行って、ちょっと表敬訪問1時間、これ東海道本線だから、いっぱいあると思うのよね、本数は。新幹線くらいまでもいかない、豊橋ちょこっと1時間くらい回ってきても、岡崎に6時ころ着いても十分だと思うのだけれども、そういうあれはなかったかい。ちょこっと来ましたくらい。どうですかなんて。いいか。俺、岡崎、あれっ、これ岡崎、金子さんのところかなと思ったのだ。そしたら、よく見たら豊橋なのよね。そしたら、豊橋は、これ乗りかえだけだから、ホームで、豊橋市役所は遠いかい、これ駅から。

(書記) 今回、表敬訪問というようにお話を今いただきましたけれども、基本的には行政視察ということになりますので、目的としてはあくまで自治体からの聴取というのが今回の大きな目的ですので、ちょっと表敬訪問という形での訪問というのは趣旨がちょっと変わってくるのかなと思います。あと、例えば今後の展開次第ですけれども、ちょっと事務局間でやりとりさせていただいて、例えばあちらの取り組みの資料をちょっといただくとか、そういったことはできるかなと思いますし、あとまだ調査、次年度も続きますので、その形で確認作業はできるかなと思いますので、そういった中でちょっと対応できればというふうに今のところ考えております。

(山岸 清委員) わかりました。

(二階堂武文委員長) よろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) それでは、そのように進めさせていただきます。

なお、今後聴取内容や行程に変更が生じた場合などは、随時皆様にご相談しながら進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

次に、その他についてを議題といたします。

前回の委員会で、三浦尚之氏の参考人招致について議決した際に、委員よりプレスリリースの話があったかと思います。その後、プレスリリースについては、取り扱いを確認しましたところ、議会としては通常4常任委員会の活動について、プレスリリースまでの対応をしていないとのことではありました。しかしながら、正副委員長といたしましては、常任委員会の活動も今後プレスリリースが可能となることが当然望ましいと考えておりますので、後日、議長へプレスリリースが可能とならないか相談をしに行きたいと考えております。

今回の参考人招致からプレスリリースが可能となるかは、その後の状況によるころではありますが、現状としましてはプレスリリースを一委員会の判断でできない状況にありますので、ひとまず正副委員長で預からさせていただき、対応していきたいと思っておりますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

こちらの件については、委員の皆様の方から何かございますでしょうか。

(小松良行委員) この参考人招致の実施要綱案を見ていただきましても、6番目の項目に、報道機関

の取材に対してということでの対応方針と申しますか、お示しされているところです。こうした議会の取り組みが報道ベースに乗るということを想定して、既にこうした対応方針が要綱の中に示されていることを考え合わせれば、私どもの活動と申しますか、調査というものを、こういう取り組みをしていますということをお知らせすることに何らばかるところはなく、これまでもオリンピック・パラリンピック調査特別委員会においてはNHKの報道カメラが入ると、ニュースカメラが入るといったことも過去に経験しておりますし、特段はばかるものではないというふうに理解するところです。一番心配されるのは、そういうことで取り上げてもらえたら、うらやましがられるというわけではないですけれども、今後、調査項目でマスコミの露出度が高いものを選択していくとかということになってしまうと本末転倒になってしまうのかもしれませんが、今回のようないろいろとまちを挙げてといった事業に対して、報道各社のほうにこういった取り組みをしていますよと、ぜひご来場いただいて、議会での取り組みについてもご理解くださいとかいうふうな報道関係者に対する情報連絡といったことは別にはばかれるものではないなという気がしておりますので、このような状況になることを私自身はそのときの発言では余り考えてもいず、委員長さん、それから書記にも非常に苦勞をかけているのかもしれませんが、何とぞ今後の議会全体としての発信力を高めていく上でも重要な案件だというふうに思われますので、委員長、副委員長手元のほうでひとつよろしくお願ひしたいと、このように思っております。

(山岸 清委員) 今小松さんの言ったことに尽きるのだけれども、やっぱり委員会でこういうのをやっていますよということは発信するのはいいと思うのね。それを取り上げるかどうかはマスコミの主観だから、これはマスコミとしてもやはり市民にこういうのをやっているということをお知らせしたいというのは、それはマスコミが考えることだから、こっちはこういうことをやっていますよということを発信するのは、これはいいことだと思うのね。だから、小松さんがうまく理路整然に言ったから、私は正副委員長にお任せしますが、やっぱり発信していくというのは大事だと思う。

(川又康彦委員) ちなみに、どのレベルで話をしなければならないのですか。

(二階堂武文委員長) 一応小松委員のほうからそういった前回お話を頂戴いたしまして、事務局のほうで、書記はじめ、ちょっといろいろ検討していただいて、特別委員会ではプレスリリースを配って、取材していただくというのは今までも、除染等委員会、オリパラもございましたが、常任委員会についてはなかったということで、私も、ここから先、ちょっと私見になるかもしれませんが、基本的に議会事務局のスタッフの皆さんにしてみれば、やはり今まで踏襲してきたことを着実に実施していくという任を背負っていらっしゃるかと思います。常任委員会でプレスリリースを配布して、報道機関の皆様に来ていただくと、その方向転換についてはやはり議会として、トップ、議長になりますが、1つ方向転換の判断が必要になってくるものかというふうにはちょっと認識しておりました。過日、ざっくばらんに、12月定例会議終わった時局講演会の折に議長のほうとも若干お話しする機会がございましたので、状況をちょっとお話いたしました。最終的にトップ判断というか、議会とし

て、議長としてどういうふうに判断するかっていろんな選択肢があると思われま。こういった広報関係については、では広報委員会におろして、そこでちょっといろいろもんでもらうというのもあるでしょうし、議長のトップ判断で即断即決というのものもあるかもしれませんし、かつまた4常任委員会がやはりかかわってきますので、議会として考えた場合は、そういった場合は、ではその4常任委員会にどんな影響が出てくるものかというのをまたどこかの集まりでちょっと議論していただくとかとすることで判断することになるかもしれませんし、選択肢はいろいろ、議長のほうのご判断で、かじを切っていただくことになれば、あると思うのですが、まずは私どもが今回所管事務調査でやっていることというのは、古関裕而さんにかかわってのまちおこし、エールに始まって、それを後押しするような、議会として、常任委員会として後押しする一つの試みの一つかと思ひます。そういった思いで小松委員のほうからもお話を頂戴しておりますし、皆さんもそれを容認していただいて、ここに至っていると思ひますので、ぜひこれはそういった方向性で、議会も少し今までの取り決めを柔軟に変えていけるようであればいいのかなと私自身も思ひましたので、第1段階としましては、正副のほうで皆様からいただいたご意見を議長のほうにちょっとご相談申し上げてみて、あとご判断は議長のほうで大所高所からいろんな指示を出していただくことになろうかなと思ひますので、そういった方向でちょっと考えています。

(山岸 清委員) 結局俺もいろんな委員会をやっていたけれども、マスコミで興味あるやつは来るから、水道料金値上げなんていうときも、頭出し以外はずっと撮られた。あともう一つ、山形のジークライトのごみ、あれなんてもごみのどうするのだ、こうするのだ、ジークライトのごみ、産廃の。だから、マスコミは興味あるやつは、こっちで発信しなくたって、ずかずかと入ってくるのだから、いつだって。だから、こっちは、こういうことをやっていますよという、アリバイ証明ではないけれども、どうですかとやるのは俺はいいと思うのだ。ただ、それをキャッチボールでこっちから投げかけたって、あっちで、いや、まだ時期尚早ですねなんていってやっている、来ないのだから。来るなど言たって来るのだよ、水道料金とかジークライトの産廃のときなんか、本当に。

(二階堂武文委員長) 以前はそういったこともあったということですか。

(山岸 清委員) あったよ。だって、これ市役所に入っているマスコミは自由だからね。

(二階堂武文委員長) 傍聴としていらっしゃってという感じですよ。

(山岸 清委員) そう。傍聴して、あとそれを発信するのだ。こうやったと。それで、現地視察の山形まで来て、俺NHKのあれ撮られて、山形のPTA会長にまで、あなた有名になったよなんて言われて。山形だからね、あれ。山形が、福島なのだけれども、山形どうしたこうしたなんてやっていた。違う。あれ山形につくって、川が福島に流れてくるのか。

(二階堂武文委員長) そうです。

(山岸 清委員) だから、山形で許可するのだけれども、排水はこっちに流れて。

(二階堂武文委員長) 今回それぞれの4常任委員会の委員長の皆さんのお考えなんかもちょっとあろ

うかなと思うのですが、まずは議長にご相談申し上げてみて、あと議長の判断で。

(山岸 清委員) いや、委員長で判断すればいいのだよ。委員会なのだから。

(小松良行委員) いや、だから本当に何かおかしいと思っているのだ、私も。これまでもそうした取材はあって当たり前だし、ここにその他に報道機関の取材に対してということで、参考人招致の実施要綱案の中にも既にそういうことがあっても対応できるようにこれ要綱書かれているのですよね。それなのに、なぜ、私どもでこういうことをやりますよ、来てくれる、来てくれないは別としても、発信するのは我々の勝手に、あと来てくれたら来てくれたでということで、ここで何もおかしいことはないのだなと思ってはいたの。

(山岸 清委員) 委員長やれば議長なんて関係ないよ。

(小松良行委員) 俺もそう思ったのだけれども。

(二階堂武文委員長) 一応手順的には正副のほうでちょっと時間をとっていただいて、議長のほうにちょっとこちらの思いをお伝えするという手順を踏まさせていただきます。

では、そういった方向で進めさせていただければと思いますので、ちょっとまどろっこしいかもしれませんが、ひとつよろしく願いいたします。

それでは、次に移りますが、現在観光コンベンション推進室、先ほどのお話でも出ましたが、講演会に出た方でメールアドレスを残された方にエール通信というものを不定期で発行しております。所管事務調査にも関連があると思われまますので、今後発行された際には、写しを委員の皆様のレターボックスに配付させていただき、情報を共有させていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) お配りしている1号目がこちらです。先ほどのお話ですと、近々2号目が出るというようなことでしたので、ひとつご参考までに目を通しておいていただければと思います。

それでは、そのように進めさせていただきます。

そのほか皆様のほうから何かございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(二階堂武文委員長) それでは、以上で経済民生常任委員会を終了いたします。

午後3時45分 散 会

経済民生常任委員長 二階堂 武文